



プロ野球と高校野球

今朝の朝刊を読んでいると、「今年のプロ野球は、関西の2球団が優勝」という内容が書かれていました。

セリーグは阪神。

パリーグはオリックス。

共に、関西に本拠地を置く球団が優勝したとのことで、関西は大いに盛り上がっているのだとか。

特に、このまま2チームが日本シリーズで戦うことになれば、実に59年ぶりの関西ダービーが実現するとのことで、1000億円以上の経済効果をもたらされる予測が記事に書いてありました。

朝刊を読むまで、そんなことになっているとは私はつゆ知らず。

以前、関西で暮らしていたころは毎朝阪神のスポーツニュースが声高に流れていましたが、住む地域が変わるとこうまで情報の入り方が違うのだと驚いているところです。

私は、野球にはそれほど詳しくありませんし、特に特定の球団のファンというわけでもありません。

でも、高校野球は大好きです。

そういう方は、他にも結構多いんじゃないかと思っています。

ではなぜ、高校野球になぜあれほど熱烈な人気があるのでしょうか。

パワーもスピードもテクニックも、プロの方が上なのは間違いありません。

豪快なバッティングも華麗な守備も目を見張る走塁も、高校生はプロに及ばないでしょう。

しかし、高校野球は今も昔も絶大な人気を誇ります。

熱烈なファンが大勢いて、もはや日本の夏の風物詩とすらなっています。

なぜ、彼らのプレーは大観衆を惹きつけてやまないのか。

それはきっと、彼らが「ひたむき」だからです。

本気で、一所懸命にプレーしているからです。

力の限り打って、走って、守って、涙するそのひたむきな姿に、人は心を打たれるのでしょう。

人間がもっとも美しく見える時。

それは、ひたむきに、一所懸命に、何かに打ち込んでいる時なのだと思います。



さて、いよいよ明日はスポーツフェスティバル。

今年は、26種の自由競技と合わせて、各学年による表現運動が予定されています。

4年生のダンスは、「ニャティティソーラン」です。

ケニアの伝統楽器ニャティティと日本のよさこいソーランを融合させたダンスです。

普通のダンスはみんなの動きをそろえて「一糸乱れず」踊ることが多いですが、ニャティティソーランにおける一番の魅力は、全員が自由に「万糸乱れて」踊るところです。

そして、ダンスを通じて何よりも体現したいのは「熱」や「ひたむきさ」

です。

見たことも聞いたこともないダンスや音色に合わせて、子どもたちは約 1 か月間一所懸命練習してきました。

もちろん、ダンスのうまさやテクニックにも確かな向上が見られましたが、それ以上に未体験のダンスに熱を込めて取り組んできたこの 1 か月間の道のりに思いをはせてもらえれば何より嬉しいです。

練習の段階から何度も感じていることですが、万糸乱れてダイナミックに踊るみんなの姿はとにかく楽しそうです。

しかも、練習の途中でも、「こんな風にしてみたい!」「あんな風に踊ってみたい!」というアイディアが次々と出てきて、入場の仕方やコスチュームの着こなし方も、随時変更を重ねながら進んできました。

アフリカの息吹を感じながら、万糸乱れて楽しく踊る4年生の姿にご注目ください。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcipcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

